

2025. 11. 21

第2回ちちぶ伝習館セミナー開会発言（要旨）

主催者を代表して開催の経緯についてご説明いたします。

本年3月に開催した第1回ちちぶ伝習館セミナー以来、西武文理大学の岩瀬ゼミと皆野高校の「観光ツアープロジェクト」での交流が続いていますが、西武文理大学としても、皆野高校生に向けたイベントを何かできないかと考えていました。

そうした中で、本日の講師である世界知的所有権機関（WIPO）日本事務所長の澤井さんから、4月23日に「世界知的財産の日」の記念イベントが東京であるので来ないかと連絡がありました。そこに参加させていただくとともに、本日の「パネル展示」も見させていただきました。

その際、澤井所長の「知財」に関するご講演とこの「パネル展示」をこの「Mahora 稲穂山」でできないかと勝手に思いつきました。関係者の皆様のご協力・ご支援により、本日それが実現できることになりました。

秩父地域には大学がないとよく聞きます。また、今回、皆野町からは高校も統合するということになります。そうした流れに少しでも抵抗しつつ、できれば逆流を起こせないかと考えたのが「ちちぶ伝習館」構想の発想です。そのためには、「ちちぶ伝習館」の仲間を増やしていくことが肝要だと考えています。こうした観点から、西武文理大学と同じように埼玉県秩父地域振興センターと連携協定を締結している城西

大学・城西短期大学の地域連携センター事務室の奈良事務長に本日お越しいただきました。

また、秩父市や皆野町とも連携協定を結んでいる立正大学からは、鈴木輝隆先生にもお出でいただきました。鈴木先生とは約 30 年前に政府系シンクタンクの総合研究開発機構（NIRA）で同僚でした。現在は立正大学や北海道東川町魅力創造アドバイザーなどでご活躍中です。

今後は、西武文理大学、城西大学、立正大学なども参加している「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム」（TJUP）のネットワークも活用して、「ちちぶ伝習館」の取組みを広げていけるのではないかと考えているところです。

秩父地域の歴史をみると、多様な交流の中で、多様な知恵を活かしてきていると思います。来年は 12 年に一度の「秩父札所午歳総開帳」です。秩父 34 札所には大変な知恵が詰まっていると思います。また、「秩父鉄道 120 周年の歩み」の講演を先日秩父神社で聞かせていただきましたが、「人を呼ぶための、多様な知恵」を使っていることがわかりました。

「インバウンド観光」や「二地域居住」にもこうした多様な知恵が求められていると考えています

本日のメイン講演のテーマは「知的財産を学ぶ」です。これからの「多様な知恵の時代」を生きる若い皆さんには、グローバル化、科学技術が一層複雑化する中で、「知恵のルール」ということも頭に入れておく必要があると考えました。以上で開会の発言とさせていただきます。